



河道技術部会 資料
(改修箇所における環境調査について)

平成28年5月16日

近畿地方整備局 福井河川国道事務所

片粕・久喜津・朝宮地区の環境調査

【調査目的】

平成19年2月に策定された『九頭竜川水系河川整備計画(国管理区間)』の改修区間のうち、日野川において今後改修が予定されている3地区(片粕地区・久喜津地区・朝宮地区)を対象に、影響対象となる生物に関する事前調査を実施する。

【調査対象区間】

地区名	距離標・位置	整備内容
片粕地区	7.7k ~ 8.7k・左岸	低水路拡幅
久喜津地区	8.7k ~ 10.3k・右岸	低水路拡幅
朝宮地区	10.1k ~ 10.8k・左岸	低水路拡幅

【調査対象項目】

植物、陸上昆虫類、鳥類、魚類、
両生類・爬虫類・哺乳類、底生動物



調査対象地区

【調査方法(植物相)】

調査方法	時期	調査範囲・地点	調査風景
調査地区内を歩きながら、生育する種を目視(木本については必要に応じて双眼鏡を使う)により確認し、種名を記録する。	初夏(6月)・ 秋季(10月)	調査地区全域 (掘削範囲を含む高水敷)	

【調査方法(両生類・爬虫類・哺乳類)】

調査方法	時期	調査範囲・地点	調査風景
目撃・捕獲及びフィールドサインによる確認	初夏(6月)・ 夏季(8月) 夏季(8月)・ 冬季(12月)	調査地区全域 (掘削範囲を含む高水敷)	

【調査方法(陸上昆虫類)その1】

調査方法		時期	調査範囲・地点	調査風景
任意採集法	見つけ取り法	調査地区内を歩きながら、生息する陸上昆虫類等を目視により確認、採集する。	初夏季(6月)・ 秋季(10月) 調査地区全域 (掘削範囲を含む 高水敷)	
	スウィーピング法	捕虫網を大きく振り、草や木の枝の先端や、花をなぎ払うようにして生息する昆虫をすくいとる		
	ビーティング法	木の枝、草等を叩き棒で叩いて、下に落ちた陸上昆虫類等を白い布(ビーティングネット、雨傘でもよい)等で受けとって採集する		
	石おこし法	石、倒木やゴミを起こして、そこに生息している陸上昆虫類等を採集する		

【調査方法(陸上昆虫類)その2】

調査方法		時期	調査範囲・地点	調査風景
ライトトラップ法 (ボックス法)	光源(紫外線灯)下に、大型ロート部及び昆虫収納用ボックス部からなる捕虫器を設置し、捕虫器に落下した昆虫を採集する。	初夏(6月)・ 秋季(10月)	1地点/地区 掘削範囲の主要な群落(1群落)	
ピットフォールトラップ法	地面と同じレベルに口がくるように、プラスチックコップ等を埋め、一晩程度放置した後に落下した陸上昆虫類等を回収する。1箇所に10個、1調査地区で30個(3箇所)設置する。		3地点/地区 掘削範囲の主要な群落(3群落)	

【調査方法(鳥類)】

調査方法		時期	調査範囲・地点	調査風景
ラインセンサス法	調査区間内を時速2km程度で踏査し、踏査ルートから左右25mの範囲で目視、鳴き声によって確認した鳥類の種類と個体数を記録する。	初夏(6月)・ 冬季(12月)	調査地区全域 (掘削範囲を含む高水敷)	

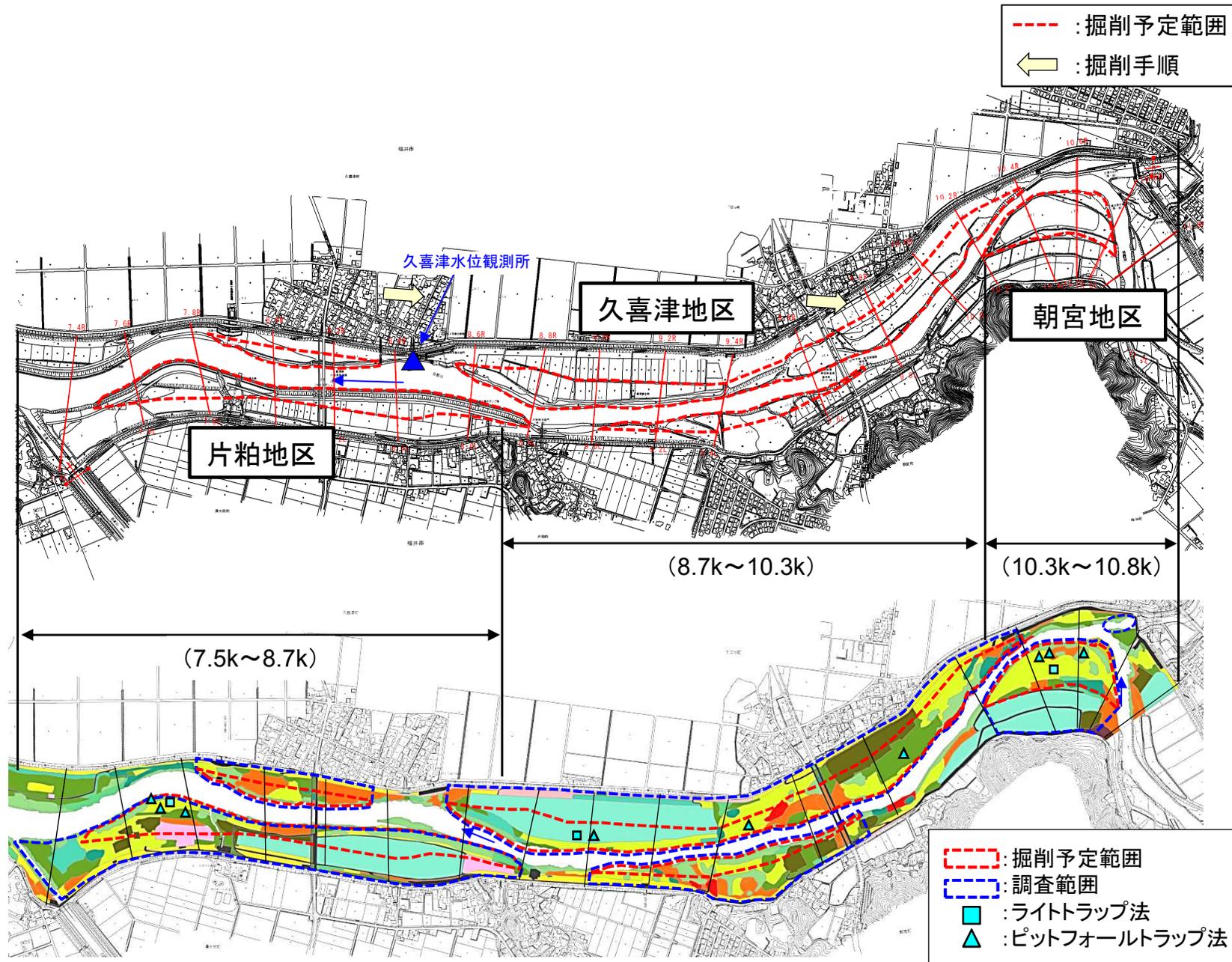
【調査方法(魚類)】

調査方法		時期	調査範囲・地点	調査風景
投網	砂州がある川岸では、流れの中を歩きながら網を打つ「徒打ち」を基本とし、水深の大きい場所では船の上から打つ「船打ち」も併用する。 5回/箇所程度を目安とする。	初夏(6月)・ 秋季(10月)	瀬・淵・水際等 (水際を含む水域)	
タモ網	河岸部では植物帯を中心に行い、オーバーハングしている場所では、できるだけ奥までタモ網を入れるようにする。河床部では、浮き石をどかしながら魚を追い込んだり、泥や砂を剥ぎ取ったりしながら行う。			

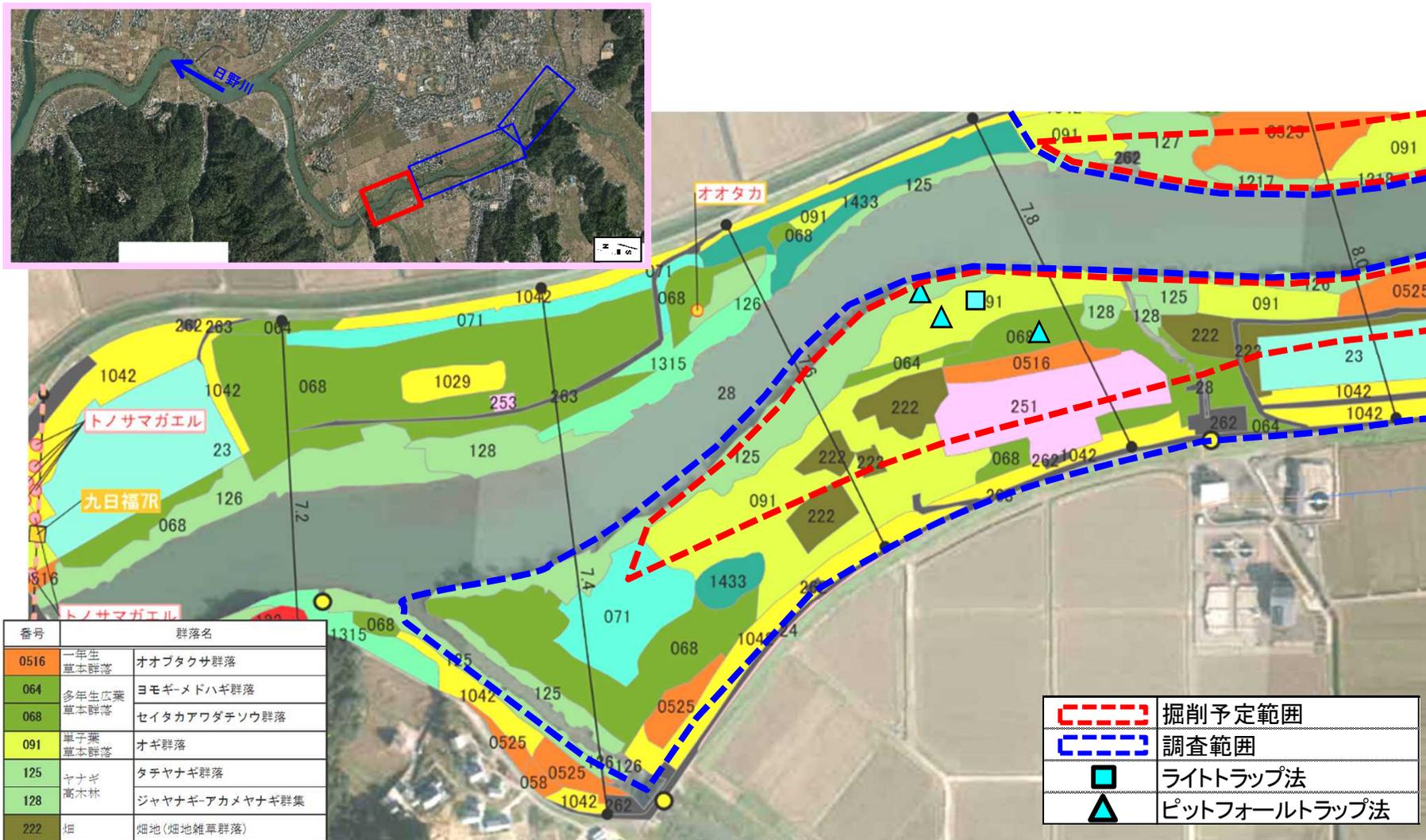
【調査方法(底生動物)】

調査方法		時期	調査範囲・地点	調査風景
定性採集	Dフレームネット	下流部にネットを設置し、その中の石に付着する生物を手や足でかき回し、流された生物をネットで受け取るようにして採集する。	瀬・淵・水際等 (水際を含む水域)	
	カニカゴ	水際植生にカニカゴを設置し、大型の水生生物(カニ等)を採集する。		
定量採集	サーバーネット	下流部にネットを設置し、その中の石に付着する生物を手や足でかき回し、流された生物をネットで受け取るようにして採集する。これを同様の環境で3回行う。		

片粕・久喜津・朝宮地区の環境調査



【調査箇所】

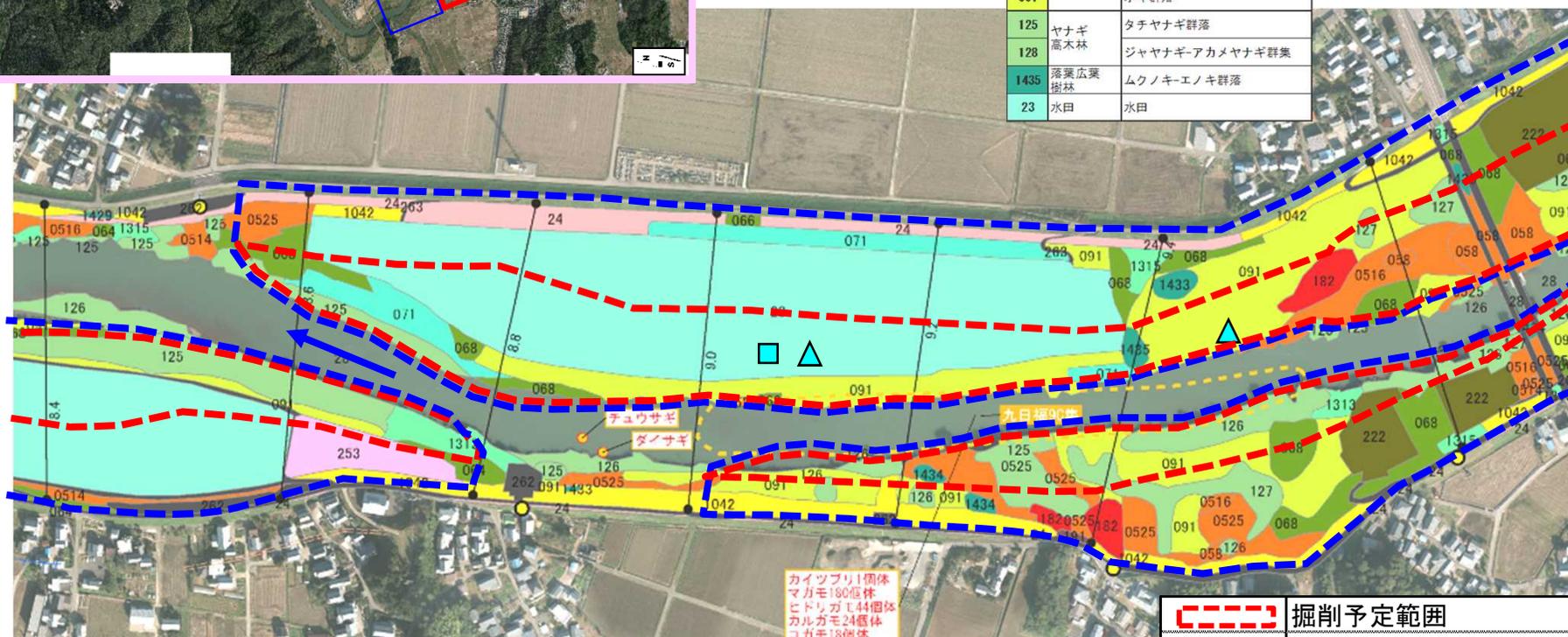


調査範囲(1/3)

【調査箇所】



番号	群落名
058	ミソソバ群落
0516	一年生 草本群落
0525	オオフタクサ群落 カナムグラ群落
064	多年生広葉 草本群落
068	ヨモギ・メドハギ群落 セイタカアワダチソウ群落
071	崖子葉 草本群落
091	ヨシ群落 オギ群落
125	ヤナギ 高木林
128	タチヤナギ群落 ジャヤナギ・アカメヤナギ群落
1435	落葉広葉 樹林
23	ムクノキ・エノキ群落 水田

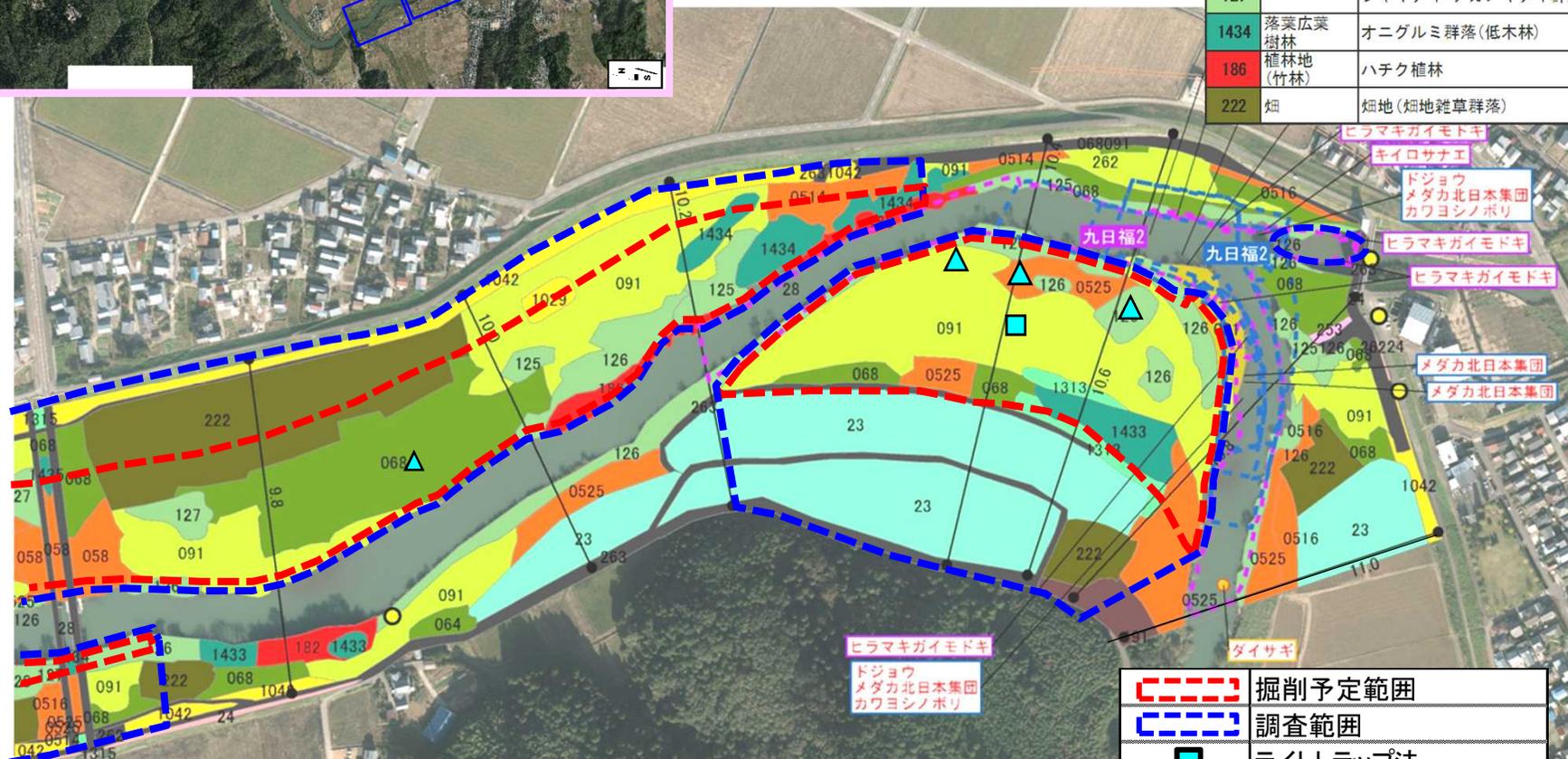


カイツブリ1個体
マガモ180個体
ヒドリガモ44個体
カルガモ24個体
コガモ18個体

	掘削予定範囲
	調査範囲
	ライトトラップ法
	ピットフォールトラップ法

調査範囲(2/3)

【調査箇所】



番号	群落名
0514	一年生草本群落 メヒシバ-エノコログサ群落
068	多年生広葉草本群落 セイタカアワダチソウ群落
071	単子葉草本群落 ヨシ群落
091	オギ群落
125	タチヤナギ群落
126	ヤナギ高木林 タチヤナギ群落(低木林)
127	ジャヤナギ-アカメヤナギ群落
1434	落葉広葉樹林 オニグルミ群落(低木林)
186	植林地(竹林) ハチク植林
222	畑 畑地(畑地雑草群落)

調査範囲(3/3)

	掘削予定範囲
	調査範囲
	ライトトラップ法
	ピットフォールトラップ法

【改修後のモニタリングの考え方】

河道掘削工事後の動植物相を調査し、湿地創出に伴う環境の変化を把握する。

【改修後のモニタリングの実施時期】

整備単位ごとの改修が完了後、下記のスケジュールで改修後のモニタリングを行い、5年後の状況を見て評価する。

なお、状況に応じて実施年以外の年での補足調査を実施する。

調査項目	1年後	2年後	3年後	4年後	5年後	設定理由
両生類・爬虫類・哺乳類 鳥類		●			●☆	移動能力が高く、改修後に環境が整えば速やかに確認が期待できる。
魚類 底生動物 陸上昆虫類 植物			●		●☆	移動能力が低く、改修後に環境が整っても確認されるまでには時間がかかる。

凡例 ●:モニタリング実施年 ☆:評価年